

【特別企画】 高校生のための大学説明会（平成 26 年 8 月 24 日）

「実施プログラムと内容」

時 刻	実施内容
9:00	参加受付開始
10:00	学類長挨拶 (二宮治彦 学類長)
	カリキュラムについて (二宮治彦 学類長)
	国際医療科学主専攻について (森川一也 准教授)
	進路・進学について (渋谷和子 准教授)
	入学試験について (正田純一 教授)
	質疑応答
11:30	模擬講義 (入江 賢児 教授)
12:30	昼食・休憩 大学紹介ビデオ放映 見学ツアー受付
13:30	在学生シンポジウム (15分×5名) ・齋藤さん (医療科学類 2 年生) ・岩橋さん (医療科学類 2 年生) ・青山さん (医療科学類 4 年生) ・伊東さん (修士課程) ・山内さん (博士課程)
	質疑応答
14:30	実習室・講義室ツアー
15:00	受験・学生生活相談と懇談会 (希望者)
16:30	大学説明会日程終了

① 参加者受付開始

当日は天気にも恵まれ、大勢の方にお集まりいただきました。



(参加入口)

今回の説明会では筑波大学医療科学類の入学案内パンフレット、入学者選抜要綱、医療科学類 Q&A など重要情報満載の資料を、大学の理念である“IMAGINE THE FUTURE”が刻まれたバッグに入れて配布しました。



(配布資料)

② 説明会（教員より）

開会にあたり、二宮学類長より挨拶をいただき、カリキュラムについて二宮学類長、国際医療科学主専攻について森川先生、進路・進学について渋

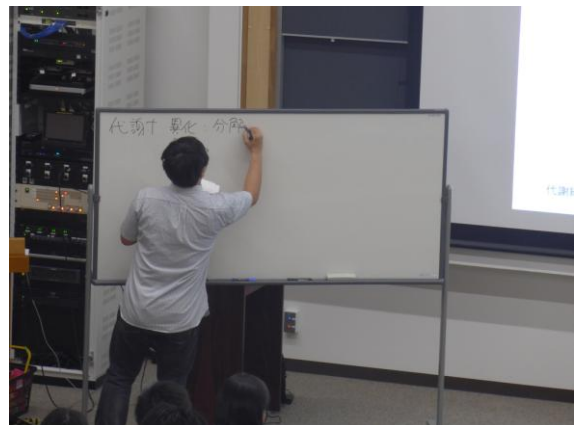
谷先生、入学試験について正田先生より説明がありました。



(説明会風景)

③ 模擬講義

今年度からは、実際の授業を体験できる模擬講義が新しく導入されました。今回は、入江先生に「糖代謝～解糖系とグリコーゲン～」というテーマで講義をしていただきました。



(模擬講義風景)

④ 在学生シンポジウム

午後からは、医療科学類の在学生および卒業後多方面で活躍する卒業生によるシンポジウムを行いました。詳細については、下記の「在学生・卒業生によるシンポジウム」をご覧ください。

⑤ 実習室・講義室ツアー

在学生シンポジウム終了後、希望者を募り医療科学類の実習室・講義室ツアーを実施しました。顕微鏡を使った実習や模擬講義を体験した高校生からは、もっと学びたいという声があがっていました。



(実習体験)



(講義室ツアー)

⑥ 受験・学生生活相談と懇談会

実習室・研究室ツアーと並行し、受験生のための試験や学生生活の相談コーナーを設置しました。相談員として、医療科学類教員、在学生、卒業生がそれぞれブースに常駐して対応しました。相談コーナーには受験生だけでなく保護者の方も多数ご参加いただきました。



(教員による相談コーナー)



(在学生・卒業生による相談コーナー)

「在学生・卒業生によるシンポジウム」

1. 齋藤 葵 (2年次在学)



(講演要旨)

私が筑波大学に決めた理由には、医学以外の学群があり、いろいろな考え方の人と関わることができるということ、将来は臨床検査技師として病院で働きたいと考えているため、医療科学主専攻に興味があるということ、地元の大学のため交通費があまりかからず、日帰りで帰省できるということがあります。私の同期の医療科学類は、千葉と茨城が多くて合わせて15人くらいです。他は北海道から沖縄まで出身地はさまざま、思いがけないことで文化の違いに触れることが多く、楽しいです。

大学生活を送ってみて、部活動の存在の大きさに驚きました。私の所属している部活動は医学バドミントン部です。部員のほとんどが医療科学類、医学類、看護学類の医学群です。週3日、大会に向けて練習をしています。大会は基本的に医学群の出場する大会です。私の所属する部活では希望者は1年生から出場できるため、常に試合を意識して練習に取り組んでいます。その中でも医療科学類と看護学類しか出場できない大会や、医学類

しか出場できない大会があります。他にもイベントが数多くあります。春・夏には合宿をしたり、全学のバドミントン同好会と交流をしたり、部活のメンバーでスキーや旅行に行ったり、文化祭でお店をだしたりします。

サークル・部活動には、他の学群の学生も多く参加している全学のものや医学群が主体の医学系のもがあります。全学と医学のサークル・部活動の一番の違いは、医学医療系との縦のつながり・横のつながりの広がりだと思います。医学系では、学年を問わず後輩から卒業生の先輩まで医療科学類、看護学類、医学類の方との関わりが深くなります。医学や看護が学んでいる内容やものごとの見方・考え方を聞くと、似ている部分があり、でも違う部分もあり、興味深いです。特に医学だと何科の医師になりたいのか、看護だと看護師か養護教諭か保健師かといった話が、私の知らない話が多く面白いと感じました。さらに、医療科学類の先輩方からの進路や研究室のお話も豊富です。所属している研究室も、主専攻、病院就職、進学など将来希望する進路も多様で、貴重なお話だなと感じています。主専攻を考える際にも、医療科学主専攻と国際医療科学主専攻どちらのお話もうかがうことができました。また、他の大学の医学バドミントン部と試合をしたり交流をしたりもするので、大学を越えて医学医療系の人々と関わることができます。たとえば、8月には東日本の医学医療系大学の同期で集まりました。全学のサークル・部活動には及ばないとは思いますが、全学の人とは宿舎や体育、総合の授業、同好会と

の交流で関わることができました。医学の部活に入部したことは大きなプラスになったと感じています。

大学ではさまざまな人と交流できるチャンスがあり、人それぞれ違った経験をしていると感じます。みなさんもぜひ自分に合ったサークル・部活動に参加して素敵な大学生活を送ってください。

2. 岩橋優花 (2 年次在学)



(講演要旨)

医療科学類 2 年の岩橋優花です。私は祖母の病気をきっかけに、医療や研究に興味を持ち、治療法の開発まではできなくても、病気のメカニズムを知りたいという思いから、研究に力を注いでいるこの医療科学類を目指しました。

さて、いきなりですが、大学生活での楽しみとったら何ですか。興味のある勉強、一人暮らし、新たな友人など様々あると思いますが、サークルや部活は大きな楽しみの 1 つだと思います。みなさんは、大学のサークルや部活といたら、どんなものを想像しますか？ バドミントンなどの運動系や吹奏楽などの文化系でしょうか？私の入っている団体は、これらとは少し異なっています。私は 2 つの団体に所属しています。その団体は、

「つくばぬいぐるみ病院」と「つくばけやきっず」です。名前を聞いただけでは、どんなことをしているのか想像できないと思うので、簡単に紹介していきたいと思います。

まず、つくばぬいぐるみ病院では、保育園や児童館において、紙芝居や劇を通して保健教育を行っています。また、病院に対する恐怖心を軽減してもらえるように、白衣やナース服を着た状態で、模擬診察、つまりお医者さんごっこを行っています。ここでは、本物の聴診器を用いて実際に自分の心臓の音を聞いてもらったりもしています。

次に、つくばけやきっずについてです。この団体は、病気の子どもたちにわくわくとドキドキを届けたい、という思いで集まった学生から構成されており、小児病棟でのレクリエーションや遠足を企画しています。その中でも、特に大きなイベントが、11 月の学園祭で行われている「ゆめ花火」です。この花火は、普通の花火ではなく、小児病棟の子どもたちが書いてくれた絵をもとにつくられた花火で、他にはないような様々な形があります。自分の描いた絵が花火として打ちあがっているのを見ている子どもたちの顔は、キラキラと輝いています。

私の行っている活動は、他の部活に比べればあまり知られていない活動です。ですが、とてもやりがいを感じています。大会の結果のように形として残るものはないですが、子どもたちが自分の活動で笑顔になった姿を見ていると私たちまで笑顔になれます。また、保育園や小児病棟といった学校外の活動ということで、子どもたちや保護者様など人と接する機会が多く、これらの活動を通して学ぶこともたくさんあります。

筑波大学には、いろいろな部活、サークルがあります。自分が好きなことを楽しんで行っているという点は、どんな部活でもサークルでも共通しています。その楽しさがみなさんに少しでも伝わっていただければ嬉しいです。受験勉強で疲れたとき、こんなことしたいなあとお楽しみを思い浮かべてみてください。

3. 青山 希 (4 年次在学)



(講演要旨)

まず、医療科学類の 2 専攻の違いについて説明したいと思います。私の所属している医療科学主専攻は、将来、臨床検査技師になる人のための専攻といえます。そのため、検査に関する知識を中心に学び、病院実習は 12 週間、卒業研究は 4 年生から約 6 ヶ月間設けられています。一方、国際医療科学類は将来、世界で活躍する医科学領域の研究者のための専攻と言えます。そのため、研究に必要な医科学に関する知識を中心に学び、卒業研究は 3 年生から約 1 年 6 ヶ月、病院実習は 5 週間設けられています。

私が医療科学主専攻に進んだ最大の理由は、将来、病院で臨床検査技師として働きたいと思った

からです。そのためには、病院実習を長く経験することで病院という現場を知ること、また病院で働く上で必要な知識を講義から得ることが大切だと思い、医療科学主専攻に進みました。

実際に病院実習を経験して感じたのは、単に臨床検査技師の仕事を学ぶだけではなかったということです。病院での実習は、実験室での実習や実験と雰囲気や緊張感が全く別物でした。また、白衣を着て行動をするため、患者さんから医師と間違えられて「先生」と声をかけられ、道を尋ねられることも多かったです。そうして 12 週間病院に通っているうちに、将来、医療従事者になる者としての自覚が芽生えるようになりました。

医療科学主専攻に進んだ私ですが、確かに、国際医療科学主専攻も魅力的だと思います。と言いますのも、国際医療科学主専攻は選択科目が多いからです。医療科学主専攻は臨床検査技師の国家試験の受験資格を得るために必修がほとんどですが、国際医療科学主専攻は自分の興味のある講義や実習を選べるため、大学生活がより充実すると思うからです。しかし、国際医療科学主専攻に進むことで、病院実習の日数は短く、また見学場所も少なくなります。また、ケア・コロキウムなど魅力的な講義や実習を選択しなくなる可能性が高くなります。それは、病院実習やケア・コロキウムから多くを学んだ私からすれば大変、もったいないことだと思います。

そんな私は今、卒業研究をしながらも、筑波大学付属病院で腹部超音波を患者さん相手に実施しております。病院実習や腹部超音波を通して患者さんと接するうちに、臨床検査技師として働きたいと思う気持ちがますます強くなりました。そこ

で、将来は腹部超音波に携われる病院に就職したいと思っています。

ここで、研究者志望でありながら医療科学主専攻に進んだ私の同期の話を紹介したいと思います。彼らの最大の心配事は、英語でのコミュニケーション能力や研究のノウハウ等で国際医療科学主専攻と差がつくことでした。と言いますのも、国際医療科学主専攻は英語での講義や英語でのプレゼンテーション等、日常から英語に触れる機会が多いからです。しかし、それでも医療科学主専攻に進んだ理由で多かったものは、医学は医療科学類にいる今か学べないが、英語は自分で学べるし、後で取り返しがつくから、臨床検査技師の資格は持っておきたいから、などでした。他にも、病院実習をきちんと経験していないと臨床検査技師について知ることができず、将来の職業選択で困ることになるからと言う学生もいました。彼らも私と同様に、病院実習の経験や検査の知識は何事にも代えがたいと考えているのでしょう。

私は今まで2専攻について医療科学主専攻の視点から話してきましたが、どちらの専攻に進んだ学生も「医学を学び、人の役に立ちたい」という共通の意思を持って日々学んでいます。専攻を選ぶのは2年生になってからです。今、皆さんが頑張るべきことは受験勉強ですね。一緒に医学を学びましょう。

4. 伊東一也 (平成24年度卒業・筑波大学人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻在学)(出身：福島県立安積高等学校)



(講演要旨)

私は医療科学類を卒業し、筑波大学の修士課程である人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻に進学しました。大学卒業後の進路は大学の選択の際に重要な判断材料になりますし、受験生の皆さんも興味があるところだと思います。そこで、私は医療科学類卒業後の進路にはどのようなものがあるか、その中でなぜ私が進学を選んだかということについてお伝えしたいと思います。

医療科学類卒業後の進路には大きく分けて就職と進学があります。就職の場合、就職先としては病院や検査を専門に行う企業などがあり、多くの就職希望者は臨床検査技師の資格を活かすことが出来る職に就いています。一方、進学の場合、進学先としては筑波大学や他の大学の大学院がありますが、現状では進学希望者のほとんどが筑波大学の大学院に進学しています。その中で私が、筑波大学の大学院へ進学した理由は2つあります。

1つ目の理由は研究がしたかったからです。私は、高校の物理の先生との出会いをきっかけに研

究に興味を持ち、研究が盛んな筑波大学に進学しました。将来は研究者になることを考えていた私は入学当初から大学院への進学を希望していましたが、その希望は医療科学類での講義や実習を通してより強いものとなりました。医療科学類の授業には生化学や分子生物学などの基礎科目から病態検査学や生理機能検査学といった臨床検査に関わる専門科目まで様々な科目があります。その中でも私は、基礎科目で学んだことがヒトの生理現象にどのように関わっているかということに興味を持って学習し、それらの知識の基となっている基礎研究の重要性を実感しました。そして、基礎研究を通して医学の発展に貢献したいと思うようになり、より有用な研究をするためにもぜひ大学院に進学したいと思ったのです。大学院といっても数多くありますが、その中でも筑波大学は総合大学であり、様々な分野の研究室があるため異なる分野間での連携が可能です。私は、この特徴は研究をしていく上で大きな利点になると考え筑波大学の大学院への進学を決めました。

2つ目の理由は将来の選択肢が増えると考えたからです。フロンティア医科学専攻の卒業生の進路は、博士課程への進学や研究所や企業への就職などと多様です。自分が考えているキャリア以外にも様々な選択肢に触れることで自分の将来を見つめなおすきっかけにもなるのではと考え進学を決意しました。実際に、フロンティア医科学専攻に入学すると自分のキャリアについて考える機会が多くあり、そのような機会はキャリア形成に大いに役立ちました。

最後に、これからの皆さんには無数の選択肢が待ち受けています。その中でも、大学の選択は重

要な選択の一つであると思います。大学選択の際には、「自分はこうしたい、こうなりたい。」ということを考えてみて、ぜひその希望を叶えられる大学を選んで欲しいと思います。筑波大学医療科学類では臨床検査技師になるための知識だけでなく、研究の重要性や面白さも学ぶことができます。さらに、卒業後の進路には病院就職だけでなく進学も用意されており、多彩なキャリアパスを歩むことが可能です。医療や研究に興味がある方、人の役に立ちたい方、筑波大学医療科学類であなただの希望を叶えてみませんか。

5. 山内庸平（平成23年度卒業・筑波大学人間総合科学研究科生命システム医学専攻在学・日本学術振興会特別研究員DC1）（出身：愛媛県立松山東高校）



（講演要旨）

平成23年度に医学群医療科学類を卒業後、修士課程である人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻を修了し、現在博士課程の生命システム医学専攻に在籍している山内庸平と申します。現在私がどのような生活を送っているか、その中で医療科学類を卒業してよかったと思うことは何かと

いうことについて書きたいと思います。

大学院では研究室における個人の研究が生活のメインです。具体的には、一人一人がテーマを与えられ（もしくは自分でテーマを考えて）、実験を行い、結果をまとめ、考察します。また結果については指導教官や研究室のメンバーと話してディスカッションすることもあります。私は比較的ハードに研究を行っていて、朝研究室にきて、深夜日付が変わってから帰るといった生活を送っていますが、やりがいを感じており、今日はどんな結果がでるかな、などと思いを巡らせながら、非常に楽しく生活しています。また、大学院では国内だけでなく、海外で研究活動に取り組む機会が非常に増えます。例えば私の場合は、スコットランドにあるエディンバラ大学に短期派遣留学をしたり、国立台湾大学における学会に参加したり、ベトナムの熱帯生物学研究所で TA として実験を教えたりしています。こういった機会によって様々な国の研究者や学生と交流し、国際的なセンスを養ったり、英語力を磨いたりしています。

こういった生活の中で、私が感じる医療科学類の魅力は3つあります。1つ目は医学を学べるということです。私が現在行っている研究は癌の浸潤メカニズムを解明するというものですが、この中で必要とされる、分子生物学、生化学、病理学、解剖学、病態学の知識は医療科学類において習得しました。他の生物系学部では病態の知識や解剖についての授業は行われないため、同期の他学部からきた友人と比べて大きなアドバンテージをもっていると、現在強く感じています。

2つ目は国際性豊かな教育環境があることです。医療科学類では最近国際医療科学主専攻という専

攻が新設され、英語で行われる授業が増えています。さらに、海外からの学生を積極的に受け入れており一緒に授業を受ける機会が増えているので、日常的に英語を使う機会をたくさん得ることができます。大学院ではもちろんのこと、これから自分の好きな仕事をし、成果を上げていくという中で、国際的なセンスや英語力は必ず求められるので、こういった教育環境の中で効率よく国際性を磨くことができる医療科学類は魅力的であると思います。

3つ目は優秀な同期がたくさんいることです。私の同期の中には、私と同様に大学院博士課程に進学し、フランスの大学に留学して国際的に活躍する人や、臨床検査技師として有名病院に勤務し、同時に研究を行っている人、大手製薬会社で新薬の開発業務を行っている人、国立大学医学部に編入したのち医者を目指す人など、高い志をもって活躍する優秀な人がたくさんいます。その同期たちとは卒業後3年経った今でも連絡を取っており、刺激を受けながら生活をしています。

このように医療科学類には、医療の第一線で活躍し社会に貢献する人物を育成する素晴らしい環境があります。筑波大学医学群医療科学類に入学し、あなたの夢を叶えてみませんか？

筑波医療科学 第10巻 第2号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
発行日	2014年9月26日